資料 4

平成 20 年度 共同研究会 第 1 回～第 5 回 記録

平成 20 年度 第 1 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 20 年 10 月 16 日（木）15 時 30 分～16 時 45 分

場 所：第一会議室

出席者：二見 木村 國武 小山 黒田 田邊 山田 浅井 臼井 田野崎 増村 森 山舘 鈴木(二)
佐藤(希) 岸本 奥村 酒巻

1. 短大独自の研究活動について

二見学長より、9 月 17（水）、18 日（木）、19 日（金）の 3 日間に行われた短大第三者評価の訪問調査について、経過説明があった。その中で、評価員より、本学は併設大学との共同による教育研究活動が中心となっているが短大教員独自の研究活動を活性化させてはいかかが、との指摘があったことが紹介された。このことを受け、学長を中心として短大専任教員全員による共同研究会を立ち上げたいとの計画が提案された。

テーマは、各教員がこれまで短大における教育活動を通じて体験した印象的なこと、という身近な問題から出発させて、今後の授業改善につなげることが提案された。

2. 共同研究の計画案について

岸本図書館長より、具体的な共同研究計画案について提案があった。今年度を準備期間として、来年度より 2 年間で研究期間とする。個人研究費による図書や楽譜の購入など、図書館としての事務的な協力と支援を約束された。

3. 今後の研究会について

今後、短大の専任教員のみを定期的に開催することにした。

以上

平成 20 年度 第 2 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 20 年 11 月 11 日（火）15 時 30 分～16 時 45 分

場 所：第二会議室

出席者：二見 木村 國武 小山 黒田 田邊 山田 浅井 臼井 田野崎 森 山舘 鈴木 岸本 奥村
酒巻

1. 『新時代の短期大学の役割と教育機能』（中間報告）について

事前配布資料：「日本私立短期大学協会 短期大学教育の充実に関する検討特別委員会」の報告書（平成 20 年 10 月 16 日）より第 3 章（pp.41～58）

1) 報告書の解説

田邊先生より、報告書全体の内容説明と、第 3 章についての解説があった。

第 1 章、第 2 章の内容は、現状と分析。

- ・ 短大進学率の減少：平成 6 年がピークで 13.2%（53 万人）、平成 20 年には 6.3%と半減した。
- ・ 18 歳人口の減少にともなう進学者数の減少：平成 20 年の大学入学者数は 60 万 7,159 人、短大入学者数は 77,338 人。

第 3 章の内容は、短期大学教育の再構築に向けて。

- ・ 新たな時代という認識で学士教育、教養教育、専門教育、職業教育を考える

- ・「さまざまな接続教育」は、本学の特色を最もよく生かせるもの
学三編入者は全国で7,700人、本学で30～40人
就職希望者より進学希望者が多い
- ・「短期大学教育を特色づける教育内容」は、特に併設大学をもつ短期大学で重要
少人数教育、導入教育、担任制度、一貫指導、教育の質の保証など
生涯学習については、地域との関係と団塊の世代を考慮する
多様な非学位課程の展開

2) 意見交換

主な意見、感想は次のとおりである。

- ・ 経済的理由で短大を選択する学生が増えている。
- ・ 入学時には目的意識が薄く、進路が未定の学生もいるが、在学中にしっかり進路を考える学生も多い。
- ・ この報告書は、短大の教育を見直すきっかけになった。

2. 学則検討について

資料：「第1回、第2回 学則検討会議 議事録」

二見学長より、学則検討会議の経過が説明された。

特に「学校教育法」および「学校法人東成学園寄附行為」に基づき「短期大学部学則」における「目的」の部分の文章を一部変更することが了承された。

12コースの「人材養成目的」については、引き続き部会ごとに検討することが確認された。

3. 「共同研究計画書」の作成について

1) 岸本先生による「共同研究計画書」(案)の説明

11月末に提出予定の計画書と研究費申請書について説明された。

2) 個人研究テーマについての現状報告(順不同・敬称略)

現時点で各自が考えているテーマについて、報告された。

二見 短期大学部の教育を総括的に研究する。

國武 担当科目である「文化史Ⅰ」をテーマとする。

田邊 学生の意識調査アンケートを実施し、他大学の学生と比較する。

山田 「教科教育法(音楽)」にかかわる指導内容・方法の工夫

浅井 短大ピアノの学生による「秋のコンサート」について。

黒田 フルートの教材について。

木村 学生の精神面の管理・指導について。

田野崎 課題曲と選曲方法について。予習について。

鈴木 入学前の音楽体験の違いと、入学時の能力差について。

臼井 試験における演奏表現について。

酒巻 クラス授業と学生の多様なニーズについて。

森 音大でのゼミ教育の手法について。

山館 「合唱」という、多人数を対象とする教育について。他大学の例を参考に。

小山 バレエ・ダンサーの職業的特性について。

図書の選定については、教員間で現在進行中である。

3) 本年度のレポート

共同研究の準備期間として、本年度中の研究成果をまとめる。

- ・ A4用紙で3000字～3500字程度
- ・ 2月～3月末に原稿を提出する

以上

平成 20 年度 第 3 回 共同研究会記録

日 時：平成 20 年 12 月 16 日（火）15 時 30 分～17 時 00 分

場 所：A312 教室

出席者：二見 國武 小山 黒田 田邊 山田 浅井 臼井 田野崎 森 山館 鈴木 奥村 酒巻

1. 「共同研究計画書」について

11 月 30 日に提出した「共同研究計画書」について、研究代表者を二見学長以外の教員に変更するようにとの指摘があった。取りまとめ役となっていた酒巻を代表者として改めて計画書を提出することにした。

2. 個人研究費で購入する参考図書選定について

10 月分の選書リストによる選定は終了したが、図書委員会より 11 月、12 月分のリストが提供されている。全教員の選定を効率よく進めるため回覧方式を改め、選書リストを常設する方法を検討した。場所については図書館事務局が適切であるとの意見が多かったため、岸本図書館長を通じて依頼することにした。

3. 今後の共同研究について

1) 「短期大学における実技教育の目的と手法についての研究 予備編」について、執筆要領（別紙）が確認された。

平成 20 年 2 月 20 日（金）午後 5 時締め切り

40 字×40 字、10.5 ポイント。A 4 用紙 2 枚程度をめやすとする。

2) 前回の研究会記録をもとに、個人研究テーマについて確認した。前回提示されたテーマは、今年度中にまとめる「準備編」のテーマと考えてよい。問題を共有した上でさらに今後の共同研究テーマへと発展させることを確認した（順不同・敬称略）。

國武 担当科目である「文化史 I」をテーマとする

→ 基本的に変更なし。

田邊 学生の意識調査アンケートを実施し、他大学の学生と比較する。

→ 全国的規模のアンケート結果を資料とすることができる。学部生との比較も視野に入れる。

山田 「教科教育法（音楽）」にかかわる指導内容・方法の工夫

→ 実技とのかかわり、教育実習とのかかわり、採用試験とのかかわり等において、望ましい教員養成を探る。学部生との比較も視野に入れる。

浅井 短大ピアノの学生による「秋のコンサート」について。

→ 全員必修のコンサートにおけるアンサンブルの指導法について。および平成 9 年からの「秋のコンサート」の歴史。

黒田 フルートの教材について。

→ よく知られている教材は、古い楽器のためのものが多い。新しいものと比較したい。

田野崎 課題曲と選曲方法について。予習について。

→ 基本的に変更なし。

鈴木 入学前の音楽体験の違いと、入学時の能力差について。

→ 現状についての「準備レポート」テーマである。

臼井 試験における演奏表現について。

→ 現状についての「準備レポート」テーマである。

酒巻 クラス授業と学生の多様なニーズについて。

→ 実技教育をサポートする、という視点を加えたい。

森 音大でのゼミ教育の手法について。

→ 「音楽芸術研究 I ②」の反省をもとに、今後のテーマにつなげる。

山館 「合唱」という、多人数を対象とする教育について。他大学の例を参考に。

→ 音楽大学における合唱の授業について。講師の依頼や参観についても今後検討する。

小山 バレエ・ダンサーの職業的特性について。

→ ダンサーのリズム感や、音楽的基礎能力開発の可能性について。

4. 二見学長の研究テーマについて

学長は、短大教員のこの「共同研究」に今後サポート役として参加するほか、独自の研究テーマを設けて、短大教員の協力を要請することになった。

「昭和音楽大学短期大学部における音楽教育実践活動の変遷」(別紙)について、説明があった。

5. 学則検討について

二見学長より、学則検討会議の経過が説明された。

特に「学部・短大合同教授会規程」を設けること、前期と後期の区分を改定すること(～9月15日/9月16日～)、新入生から成績を5段階(S・A・B・C・F)にすることなどについて、次回の教授会で諮られることが説明された。

6. その他

今後の研究会の日程を検討し、以下のとおりとした。

第4回：平成20年2月10日(火)15時30分より

第5回：平成20年3月10日(火)15時30分より

以上

平成20年度 第4回 短大共同研究会記録

日時：平成21年2月10日(火)15時30分～17時00分

場所：第二会議室

出席者：二見 國武 小山 木村 黒田 山田 浅井 臼井 田野崎 森 山舘 鈴木 石綿 酒巻

1. 『短期大学教育の再構築を目指して — 新時代の短期大学の役割と機能』(日本私立短期大学協会 平成21年1月16日発行)について

日本私立短期大学協会発行の同書について、最新版が紹介された。全体の「概要」と「第3章」の部分(別資料)を読み、短期大学に求められているものについての情報を共有することにした。

2. 共同研究準備段階のレポート作成について

前回の記録をもとに、個人研究テーマについて再度確認した。

「短期大学における実技教育の目的と手法についての研究 予備編」について、以下の執筆要領が確認された。

平成20年2月20日(金)午後5時締め切り。酒巻まで。

40字×40字、10.5ポイント。A4用紙2枚程度をめやすとする。

各教員の個人テーマを再度確認しながら、活発な意見交換が行われた。専門分野を超えた共通理解が得られ、レポート作成のために互いに有意義な討議であった。

* その後の経過と今後の予定

2月20日(金) 提出された原稿を酒巻がとりまとめ、岸本先生へ。

↓ 岸本先生がB5サイズに編集、レイアウトを整え、表紙と目次を作成。

3月2日(月) 執筆者に原稿の確認依頼。

↓ 執筆者による校正。

3月10日(火) 岸本先生に校正原稿を返却。

↓ 岸本先生による校正原稿の編集。

3月23日(月) (予定)簡易版冊子としてプリントアウト。

3月26日(木) (予定)教授会で配付。

以上

平成 20 年度 第 5 回 短大共同研究会記録

日 時：平成 21 年 3 月 10 日（火）15 時 30 分～17 時 00 分

場 所：第二会議室

出席者：二見 國武 小山 木村 黒田 酒巻 田邊 山田 浅井 臼井 田野崎 増村 森 山館 鈴木
石綿

1. 「準備レポート」の校正原稿について

全員の構成済み原稿が提出された。なお、表題の副題として提案されていた「教育者としての雑感」（仮称）に関しては、再検討した結果、「“教える”ということを改めて考える」とすることになった。また巻末に 20 年度共同研究会実施記録を添付することにした。

冊子は 100 部作成し、3 月 27 日の教授会において全専任教員に配布することにした。

2. 共同研究 2 年目の展望について

平成 21 年度からの本格的な共同研究については、各教員の「個人研究」を基盤にしつつ、コースごとに異なるメソッドを踏まえながらの「グループ研究」に集約することを基本姿勢とする。また、「全体での研究」テーマとして〈短大教育に関する資料の収集〉と〈昭和音楽短期大学の歴史に関する資料の収集〉を計画的に行い、短大学長室に保管・集積し、『短期大学部創立 50 周年史』作成のための基本資料としていくことにした。

活動方針としては、毎月 1 回全員参加の定例会を持ち全体の意思の疎通を図りながら適宜グループごとに研究を進めていくことにした。定例会は火曜日の 15 時 30 分開始とするが、詳細については、新年度の会議日程の発表を待ってから決定する。

3. その他

小山先生より「学生指導において学生との携帯メールによる連絡についてどう考えるか」との質議があり、全教員が活発に意見を述べた。その結果実技個人レッスン学生との連絡には多くの教員がほとんど問題もなく有益であると考えているが、クラス授業やクラス担任指導においては学生を十分に把握しきれないとの理由で使用していない教員が多かった。

また教職科目では、「教職メール」を設け、全教員共通のパソコンアドレスに学生が携帯より自由に連絡を取れるシステムをとっており、この点は他部会でも参考にしていくべきであろうと話合われた。

学生孤立の時代ともいえる現代では、コミュニケーション力の不足など従来とは異なる気質・能力の学生が増加しており、今後そのような学生をケアするうえで、現行のクラス担任制以上により綿密な支援体制を構築していく必要がある。この点も踏まえて今回の共同研究を通して学生に本来の「学士力」を身に付けさせ得る教育の実践方法について改めて考えていくべきであろうと合意した。

以上